

PeaceNow!Nagasaki2017 開催報告

平和と社会的課題委員会
PeaceNow!Nagasaki実行委員長 須田浩之



概要

日程：2017年8月8日（火）～11日（金）

開催場所：長崎大学/長崎市内/長崎あぐりの丘高原ホテル

獲得目標：①全身で長崎を感じ、平和への想いを識り、受け継ぐ

②多角的な視点から、平和への考えを深める

③自分のなかの平和を広げ、これからの一歩を踏み出す

参加概要：参加者44名/実行委員9名/sGL8名/学生常勤3名/九州BK職員1名

体制：実行委員長 須田浩之（連合会学生委員会）

企画局長 廣岡純奈（長崎大）

事務局次長 若松芳樹（九州ブロック）

実行委員 江藤萌果（長崎大）/前園彩乃（長崎大）/武田和也（長崎大）/
平江由貴子（長崎県立大佐世保校）/石井夏月（長崎県立大佐世保校）/
木嶋一樹（長崎県立大シーボルト校）/鬼束芽依（西南学院大）

企画内容：1日目 長崎を知る学習会/フィールドワーク①

2日目 平和祈念式典/被爆者講話/フィールドワーク②

3日目 学習会(米軍基地・日本の加害面・核兵器)/岡まさはる記念館見学

4日目 ヒバクシャ国際署名/これまでを振り返る時間/これからを考える時間



1日目&2日目

企画①「長崎とナガサキを知る時間」

この時間は、セミナーの学びの前提知識をまず初めに得るための時間。

「長崎」という場所がどのようなところなのか、また原爆を落とされた「ナガサキ」がどのような被害を受けたのか、原子爆弾とはそもそもどのような兵器なのかを学習しました。

企画②-1「ナガサキを歩く(1日目)」

長崎市内に残っている被爆遺構を見て歩く時間。1日目は以下の場所を回りました。

長崎大学医学部/原爆資料館/爆心地公園/平和祈念公園/無縁死没者追悼記念館/永井隆記念館/山里小学校

企画③「もう一つの長崎」

この時間では、長崎の抱える矛盾を「三菱造船所」の切り口から学びました。この時間ではより「なぜ長崎に原爆が落とされたのか」ということを深掘りしていくことで長崎が重要な軍事拠点であったことや、三菱造船所が製造した戦艦が実際に太平洋戦争の際に日本の軍力として役割を發揮していたということを学習しました。

企画②-2「ナガサキを歩く(2日目)」

長崎市内に残っている被爆遺構を見て歩く時間。2日目は以下の場所を回りました。

長崎大学/浦上天主堂/被爆クスノキ/一本柱鳥居/原爆死没者追悼平和記念館/城山小学校

この時間の中で平和祈念式典の参加も行いました。

企画④「被爆者の想いを知る時間」

実際に72年前に原爆の被害を受けた人の講話を聞く時間。今回は2人の方をお招きしお話しいただきました。

今回来ていただいた方は、原爆投下時には幼少期で、ほとんど記憶が残っていないと話していました。

被爆者の高齢化が進む中、このように原爆投下の記憶が無い方のお話を聞く機会も増えるのだと感じました。

企画⑤「被爆者の想いを知る時間」

被爆者が経験した辛い過去であったり、当時起こっていた社会問題について触れると共に、そこからどのように長崎が復興して今に至るのかを扱った時間。



3日目&4日目

企画⑥-1 「一步離れてみつめる時間 その1」

大日本帝国の歴史について、教科書に載っているような事実だけでなく、当時の世界から見た日本や有識人の見方を提示することで今までの視点ではない見方から物事を考えてもらうことを学ぶ時間でした。それを踏まえ、現在の北朝鮮とどのような関わり方を行っていくべきかをテーマとし、討論を行いました。

企画⑥-2 「一步離れてみつめる時間 その2」

軍艦島と南京大虐殺、台湾、慰安婦問題などを切り口とし、前の時間に引き続き日本の「加害面」について扱う時間であった。日本の加害面・差別の歴史について明らかにしようと尽力していた岡正治さんの行ってきた活動を残した「岡まさはる記念長崎平和資料館」の見学も行いました。

企画⑦ 「米軍基地について考える時間」

日本における戦争・平和問題を考える際に出てくることの多い「米軍基地」問題について扱った時間。日本全体には米軍基地が126個もあるという導入から米軍基地を身近なものと感じてもらい、米軍基地が日本にあることによって予測されている危険性や、日本が受けている恩恵について扱いました。

企画⑧ 「核兵器の未来を考える」

BB弾シミュレーション(BB弾ひとつを核爆弾ひとつに例え、今の世界でどれだけの量の核爆弾があるのかBB弾を落とす音で実感してもらうもの)から始まり、そもそも核兵器とはどのようなものなのかといった基礎知識の部分から、核の兵器利用と平和利用について、核抑止力・核の傘問題などの、核が抱える問題、NPTや核兵器禁止条約などの現在の核を取り巻く現状について幅広く学習を行いました。

3地域合同企画 「ヒバクシャ国際署名」

原爆の被害を受けた被爆者自身が声をあげて活動を行なっている「ヒバクシャ国際署名」について扱い、「平和の実現に向けて自分たちができることは何か」ということを議論しました。

企画⑨ 「想いをかたちにする時間」

これまで学んできたことを冊子にアウトプットする時間。この時間だけで行うのではなく、毎日夜の時間で、企画ごと大切だと感じたことを書く時間を設けました。

企画⑩ 「自分の意見を深める時間」

他の班の参加者との交流を行い、これまでの学びで感じたこと・考えたことなどを交流し、自分の平和の価値観を深めました。



参加者の声

Q.4日間を通して、感じたこと、考えたことなど感想を書きつくしてください。

新たな視点で、戦争や平和について学んで、さらにいろいろな切り口から学習して今まで見てなかったところがあると感じた。日本全国から集まって、長崎で起きたことや平和について考えて、このように輪が広がっていき、うれしかった。今年初めて、長崎以外の土地で原島の原爆の日を過ごして、全然、平和に関心が無いのかと思っていてはけど、平和学習に熱量がある人がいるのかと思ったり、まだまだ広がっていくのではないかと可能性を感じた。

平和やナガサキについて新しい見方ができるよりに感じたことも大きいけど、人と意見を交換することの大切さも知ることができたことか。何よりも大きかったと思う。楽しめるとあれば、初対面の人とだっただけで笑えるのがわかった。たのしかった!!! 来返かった!

今まで平和学習を地元の学校としたことにはあったけれど、やっぱり直接現地に訪れることで、深く考えることができていいと思います。被害者側の視点ばかりで今まで考えていたことが、様々な視点から考えることができたことも長い4日間でした。そして、そのために、一緒に考える仲間が大事だということもわかりました。戦争や平和の考え方が変わったし、自分も少し成長できた4日間でした。ありがとうございます。

学んで感じたこと・考えたことを大切に、今後の活動に活かしていきましょう!



この記事に対するお問い合わせ先
PeaceNow!Nagasaki2017実行委員長 須田浩之
suda.hry@fc.univcoop.or.jp